



29年7月号

検査室だより

本格的な梅雨に突入です。ジメジメした毎日で気分も落ち込みがちですね。生物が大きくなるには雨も必要です。♪ピッチピッチチャプチャプランラン♪
「雨もまた楽し」です。

先日、小林麻央さんが亡くなりました。
ご本人や家族、周りの方々の悲しみは計り知れないものがあると思います。そんな思いをする人が一人でも少なくなるよう、もう一度「乳がん検診」について一緒に考えてみましょう。

「1~2年に1度の乳がん検診で大丈夫かしら・・・？」

確かに。定期的に検診を受けていただくことはいいことだと思います。しかし、中にはあっという間に急激に大きくなって悪さをする「炎症性乳がん」というものもあります。「じゃあ、どうしたらいいのよっ！！」と思います。検診と検診の間の不安を埋めるには「自己触診、自己観察」です。自分のおっぱいを触ったり、鏡で見てください。おっぱいにコリコリするものがないですか？大きさは左右同じですか？おっぱいにえくぼができていませんか？乳首から何か出ていませんか？ちょっとでも気になることがあれば次の検診を待たずに病院に行ってください。

「マンモグラフィーとエコーどちらを受けようかしら？」

乳腺の状態などから40歳以上はマンモグラフィー検査が推奨されています。しかし、実際は身体の状態も人それぞれです。41歳だから絶対マンモグラフィーでないといけない・・・というわけではありません。検査をする側が「あなたはマンモグラフィー。あなたはエコー。」と決めるわけにもいきません。

突き放すようですがご自身で検査を選んでください。ドクターや技師に相談しながらご自身にあった検査を選んでください。ただマンモグラフィーとエコーを両方受けても10~20%は見落としがあるというデータもあります。そこは「自己触診、自己観察」で埋めてください。「自分の身は自分で守る」です。

授乳中や断乳直後の方。そのおっぱいは、いつもの状態ではありません。それでも「検査したい！」「気になることがある」という方は病院で検査を受けてください。

乳がん検診にかかわらず、せっかく受ける検診です。万全の状態で臨んでください。検査を受ける側も、検査する側も一生懸命。これが早期発見の近道です。



梅雨明けはもうすぐです。体調を整えて楽しい夏を迎えてください。

公衆保健協会 健診センター

